

アプリケーションの モダナイゼーションの 状況

企業はレガシーアプリケーションのモダナイゼーションに
どう取り組んでいるか

2024 年版

Red Hat® レポート



目次

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:

アプリケーションのモダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:

アプリケーションのモダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:

組織はモダナイゼーションの専門知識を蓄積している

調査結果 4:

モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:

主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:

企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:

外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:

企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:

モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

調査結果 10:

AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

エグゼクティブサマリー

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

先進的なビジネスの中核にはアプリケーションがあるという考え方は、時間とともに広く受け入れられるようになりました。しかし、先進的テクノロジーやクラウドネイティブ・アプローチといった言葉が普通に聞かれるようになった一方で、ほとんどの組織はいまだに、新しい機会を活用するためにアプリケーション、インフラストラクチャ、ビジネスのモダナイゼーションに取り組んでいるのが現実です。

アプリケーションのモダナイゼーションに関するレポートの第 2 版となる本書では、調査を拡張して対象者と質問を増やし、また、組織がモダナイゼーションの取り組みに対してどのようなアプローチを行っているかに関するより正確な洞察が得られるよう、一部の質問を更新しました。

調査では、アプリケーションのモダナイゼーションに対する姿勢は全般的に前向きであることがわかりました。ほとんどの回答者はモダナイゼーションを不可欠なものとして見ており、取り組みを成功させるために必要なリソースへのアクセスがあると考えています (**調査結果 1**)。また、企業はモダナイゼーションのプロジェクトを進めており、過半数が 1 つ以上のプロジェクトを完了しています (**調査結果 3**)。さらに、組織は今後 1 年以内に半数以上のアプリケーションをモダナイズすることを計画しています (**調査結果 2**)。

今年の調査では、個人レベルと組織レベルの両方で課題を掘り下げました (**調査結果 6**)。その結果わかったのは、課題は互いに絡み合っているということです。たとえば、セキュリティ、統合、優先順位の競合に関する個人レベルの懸念は、組織レベルの課題のトップに挙げられているレガシーシステムの複雑さと容易に結びつけることができます。とはいえ、組織は新しいツール、アプローチ、トレーニングといった形で、これらの障壁を乗り越えるために行動しています。

順序としては最後でも他に劣らず重要なポイントとして、この調査ではモダナイゼーションの取り組みにおける人工知能 (AI) の役割について質問しました (**調査結果 10**)。その結果、78% の組織が AI を使用してアプリケーションのモダナイゼーションをサポートしている、あるいはそうする計画を持っており、大きな役割を担っていることがわかりました。組織はパターンの識別、データの分析、タスクの自動化という AI の強みを、アプリケーションと、アプリケーションのモダナイゼーションのプロセスそのものの両方を強化するために利用しています。

アプローチや優先順位に違いはありますが、これらの調査結果全体からは、どの地域においてもモダナイゼーションが組織の優先事項であることは変わっていないというメッセージを明確に読み取ることができます。次に、Red Hat のアンケートでわかった 10 件の調査結果について説明します。

このレポートについて

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

- 調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き
- 調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける
- 調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している
- 調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない
- 調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである
- 調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している
- 調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する
- 調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する
- 調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション
- 調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

本レポートの第 2 版となる今回、Red Hat は、米国 (U.S.)、英国 (U.K.)、英語圏のアジア太平洋地域 (APAC) の 1,000 人の IT 意思決定者 (ITDM)、バックエンド開発者およびソフトウェアアーキテクトに対するアンケートを主催しました。組織がモダナイゼーションと移行へのアプローチをどのように計画し、アプリケーション・モダナイゼーションの成功をどのように定義しているかを把握することが目的です。データは、サードパーティデータベースから抽出した回答者との 25 分のオンラインおよび電話インタビューを通じて収集されました。このアンケートは、2023 年の 10 月から 11 月にかけて実施されました。

回答者のプロフィール:

- ▶ 企業のアプリケーション・ポートフォリオを担当する ITDM、バックエンド開発者、ソフトウェアアーキテクト
- ▶ 社内にアプリケーション開発チームがあり、モダナイゼーションを実施または計画しているカスタムアプリケーションを所有する企業から選抜
- ▶ 現在ハイブリッドクラウド・アーキテクチャまたはマルチクラウド・アーキテクチャと、コンテナまたは Kubernetes を使用またはその使用を計画している企業から選抜

回答者の属性

1,000
名 (合計) の回答者

500
米国 (U.S.)

250
英国 (U.K.)

250
英語圏のアジア
太平洋地域 (APAC)



50% IT 意思決定者
25% バックエンド開発者
25% ソフトウェアアーキテクト



35% 中規模企業
65% 大企業



13% 卸売または小売
12% ソフトウェア開発
11% 金融
7% 通信

7% 医療
50% その他
(エネルギー、建設、
教育、保険、科学、
運輸、農業など)

主な調査結果

今回も、Red Hat のアンケートからは、企業がアプリケーション・モダナイゼーションにどのようにアプローチしているかに関する洞察を多数見出すことができます。主なポイントは以下のとおりです。

- ▶ 回答者の 95% は、組織の成功のためには**アプリケーションのモダナイゼーションが欠かせない**と考えています。
- ▶ 企業は今後 1 年以内に**カスタムアプリケーションの 51%** をモダナイズする計画を立てています。
- ▶ 企業の 75% はすでに少なくとも**小規模なモダナイゼーション・プロジェクト**を完了させており、18% は継続的モダナイゼーションの段階まで進んでいます。
- ▶ 「アプリケーションのモダナイゼーション」という表現は、継続的インテグレーション/継続的デプロイメント (CI/CD) の向上やデータモダナイゼーションなど**さまざまな取り組み**を指して使用されています。
- ▶ モダナイズを行う理由、取り組みを測定するためのメトリクス、アプリケーションのモダナイゼーションによる全体的なメリットとして最も多くの回答が集まったのは**セキュリティ、信頼性、スケーラビリティ**でした。
- ▶ モダナイゼーションの取り組みにおいて、組織と個人が直面する課題は互いに入り組んでおり、組織は新しいツール、アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) 駆動型の開発、トレーニングにより**これらの課題の克服**を図っています。
- ▶ **外部パートナー**は、社内チームの主導またはアプリケーションの直接的なモダナイズのいずれかにおいても、アプリケーションのモダナイゼーションのプロセスの 66% で重要な役割を果たします。
- ▶ 組織はモダナイゼーションしようとしているアプリケーションに応じて**複数の戦略**を使用します。85% のアプリケーションはリホスティング、リプラットフォームング、リファクタリングを含む 2 - 3 段階の反復によってモダナイズされます。
- ▶ 企業はレガシーアプリケーションのモダナイズにより多くの予算をかけるようシフトしており、最も優先順位が高いのは**ビジネスアプリケーション**です。
- ▶ 78% の組織はアプリケーションのモダナイゼーションの取り組みをサポートするために**人工知能 (AI)** を使用しているか、使用を計画しています。

ここからは、これらの調査結果についてさらに詳しく説明します。

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

調査結果 1:

アプリケーションのモダナイゼーションに対する姿勢は前向き

回答者のほぼ全員が、モダナイゼーションは不可欠であり、その成功のために必要なリソースとツールへのアクセスがあると回答しました。

あらゆる IT の取り組みにおいて、人材は極めて重要な要素です。アプリケーションのモダナイゼーションでもそれは変わりません。今年の調査では、アプリケーションのモダナイゼーションに対する回答者の全体的な体験と姿勢について知りたいと考えました。地域や役職にかかわらず、回答者の体験は全体的に前向きでした。95% の回答者は組織の成功にとってアプリケーションのモダナイゼーションは不可欠なものであると考えていました。他の役職と比べ、ソフトウェアアーキテクトは、モダナイゼーションが不可欠であると強く考え、成功のために必要なリソースやツールへのアクセスがあると感じている割合が高くなっていました。一方で、ITDM は外部のベンダーからのサポートやコミュニティフォーラムにより大きな価値を認めていました。そのような違いはありつつも、あらゆる役職を含む 95% の回答者が、自分の役割でモダナイゼーションをサポートするために必要なものは得られていると考えていました。

モダナイゼーションに対する姿勢はどの地域でもほぼ同じでしたが、目立つ違いが 2 つありました。アジア太平洋の回答者は、米国および英国の企業と比べてベンダーのサポートを受けている割合が明らかに高くなっていました。また、質問やサポートのためにコミュニティフォーラムにアクセスできることが成功のために欠かせないと考える割合も、英国に比べて高くなっていました。

全体的に見て、これはいい傾向です。前向きな姿勢は通常、アプリケーションのモダナイゼーションの取り組みに関するスタッフのオンボーディングが済んでおり、プロジェクトを進めるために必要なサポートが得られていることを示しています。

アプリケーションのモダナイゼーションの経験 (地域別)

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

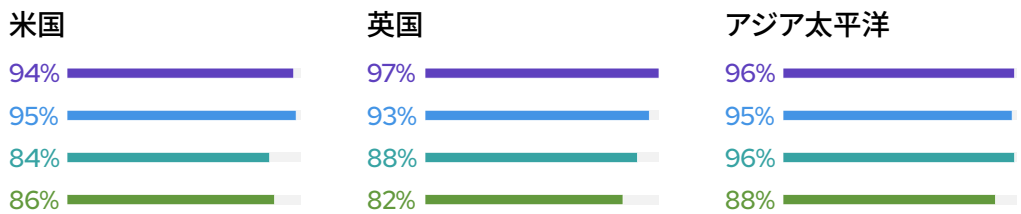
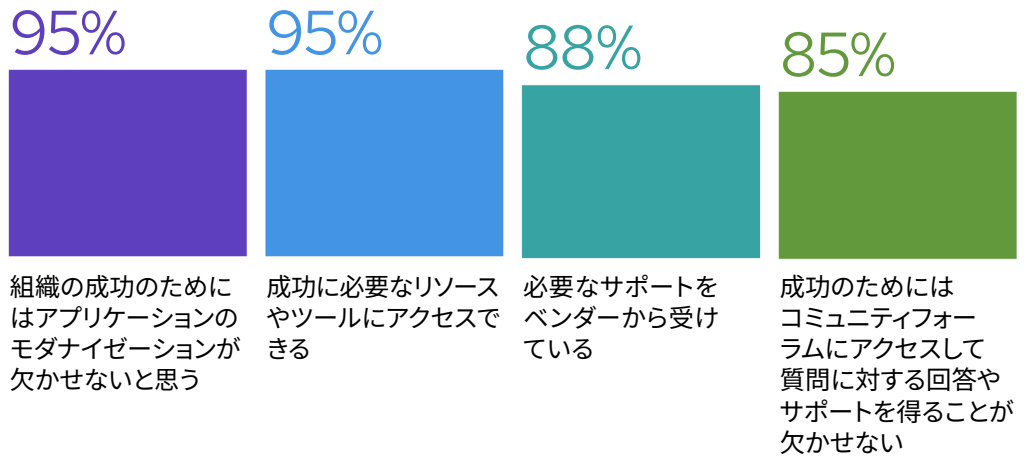
調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

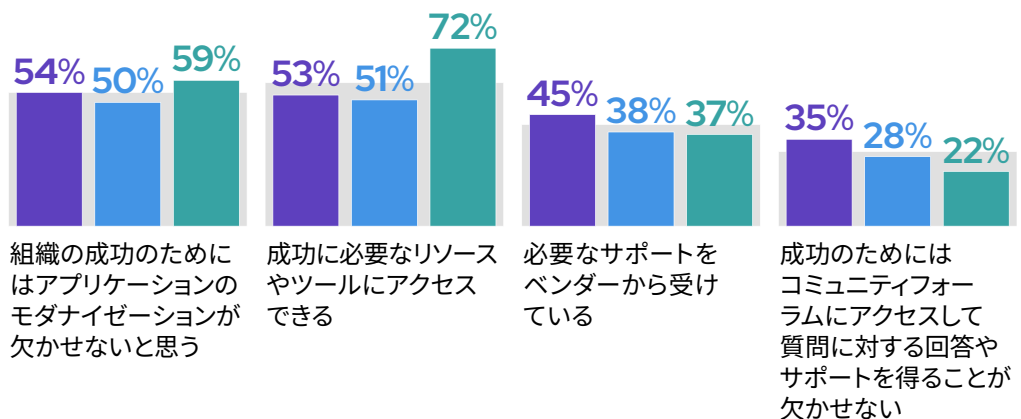
調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく



Q1a_T2B. あなたの組織で行っているアプリケーションのモダナイゼーションに関して、次の各文にどの程度同意しますか？調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250
「同意」または「強く同意」と答えた回答者の割合

アプリケーションのモダナイゼーションの経験 (職務別)



● IT意思決定者 ● 開発者 ● ソフトウェアアーキテクト ● 全体

Q1a_T2B. あなたの組織で行っているアプリケーションのモダナイゼーションに関して、次の各文にどの程度同意しますか？調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250
「強く同意」と答えた回答者の割合

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

調査結果 2:

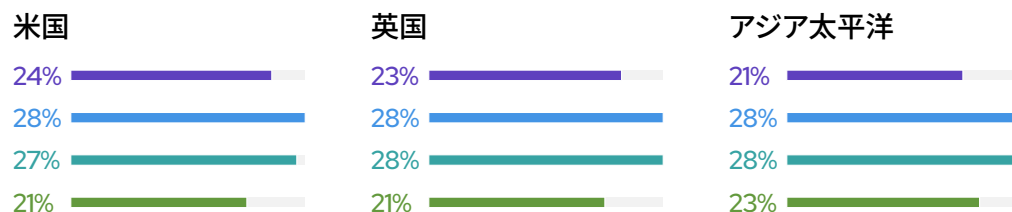
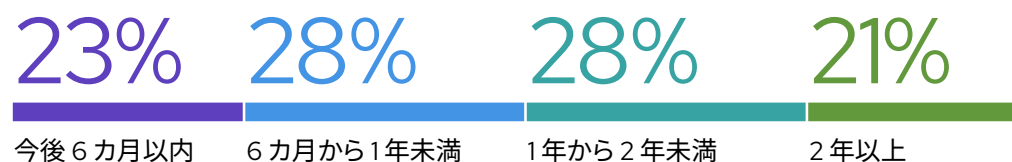
アプリケーションのモダナイゼーションは前進を続ける

企業は今後1年以内にカスタムアプリケーションの半数以上をモダナイズする計画を立てています。

組織はアプリケーションのモダナイゼーションのタイムラインに関して楽観的であり、これは同じ質問に対する 2021 年の結果とほとんど変わっていません。企業は現在も今後1年以内にカスタムアプリケーションの半数以上 (51%) をモダナイズすることを目指していて、その翌年中にはアプリケーションのさらに 28% を上積みでモダナイズすることを目標に据えています。モダナイズに2年以上かかると考えているアプリケーションはわずか 21% に過ぎません。

カスタムアプリケーションのモダナイゼーションのスケジュール

(それぞれの時間枠でモダナイズするカスタムアプリケーションの比率)



Q11. 組織としてモダナイゼーションを計画しているカスタムアプリケーション全体について、以下の各タイムフレームにおけるカスタムアプリケーションのモダナイズはどのような比率を想定していますか? 調査対象者数: 合計 = 988、米国 = 497、英国 = 244、アジア太平洋 = 247 (「わからない」という回答は平均値から除外)

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

短期的な予測には多少の動きがあり、組織は次の 6 カ月でアプリケーションの 23% をモダナイズすることを計画しています。2021 年には、同じ期間で 27% のモダナイズが計画されていました。アジア太平洋における差異はさらに大きく、2021 年から 2023 年で 8 ポイント減少しました。

もちろん、モダナイゼーションの実際のスケジュールは、利用可能な予算、アプリケーションの種類、最初の作成手法、デプロイ方法、アプリケーションの依存関係の量と複雑さを含め、多くの要素に依存しています。求められるモダナイゼーションのレベルと組織のアプリケーション・ポートフォリオのサイズもスケジュールに影響を及ぼします。したがって、短期的なモダナイゼーションの数値の減少は、比較的シンプルなモダナイゼーション・プロジェクトの多くがすでに完了し、より複雑なアプリケーションに着手し始めていることを示している可能性があります。

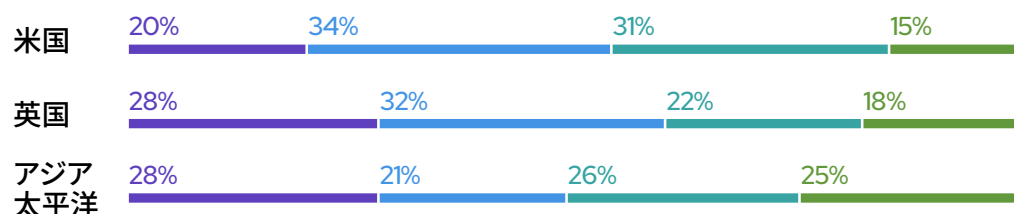
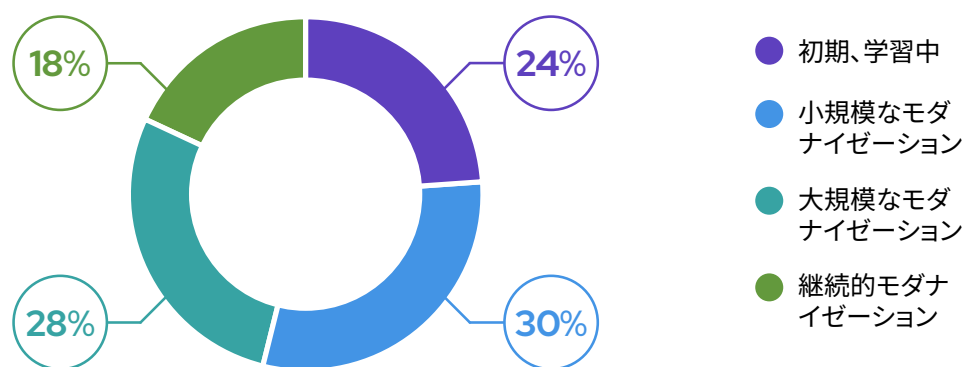
調査結果 3:

組織はモダナイゼーションの専門知識を蓄積している

75% の組織が、少なくとも小規模なモダナイゼーション・プロジェクトを完了させています。

アプリケーションのモダナイゼーションはプロセスであり、組織はいくつもの段階を通過してモダナイゼーションのエキスパートへと近づいていく傾向があります。今年の調査では、組織がそれぞれのモダナイゼーションのライフサイクルでどのあたりにいるのかを知りたいと考えました。その結果わかったのは、初期の学習段階、小規模の段階、大規模の段階、継続的モダナイゼーションを行う段階のそれぞれにほぼ均等に分布しているということでした。24% の組織ははまだ学習の段階にある一方で、18% はすでに継続的モダナイゼーションの段階に到達しています。過半数の企業はライフサイクルの中ほどにあり、30% は小規模なプロジェクトを完了した段階、28% は大規模なプロジェクトを完了した段階にありました。

モダナイゼーションのライフサイクルの段階



Q2a. アプリケーションのモダナイゼーションに関するあなたの組織の成熟度をどのように評価しますか？調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

このデータを地域別、業界別、また企業規模別に見ると、興味深いことがわかります。教育、卸売、小売の各業界の組織、および大規模エンタープライズは、学習の段階にいる割合が高くなっています。こうした組織はサプライチェーンや ERP システムなどの業務に欠かせないレガシーアプリケーションを使用しており、モダナイズに当たっては慎重な計画が必要になると思われるので、これは当然の結果と言えます。これらの組織からは、一部のビジネスクリティカルなレガシーアプリケーションはモダナイズしないで機能しなくなるぎりぎりまで使い続け、それから新しいクラウドネイティブのものに切り替えようと考えているという声もよく聞かれます。一方で、米国の企業と金融業界の企業は中ほどの段階にいる割合が高く、アジア太平洋の企業とソフトウェア開発企業はすでに継続的モダナイゼーションを実装している割合が高くなっていました。

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

また、組織がモダナイゼーションのプロセスを前進するにつれ、次のような傾向が高まることがわかりました。

- ▶ ハイブリッドクラウドまたはマルチクラウドのインフラストラクチャを使用している
- ▶ コンテナと Kubernetes を使用している
- ▶ モダナイゼーションを自動化や仮想化と結びつけている
- ▶ アプリケーションを社内で開発している
- ▶ すでにクラウド対応アプリケーションやクラウドネイティブ・アプリケーションを構築している
- ▶ モダナイゼーションの取り組みからより多くのメリットを得ている

調査結果 4:

モダナイゼーションが指すものは1つではない

アプリケーションのモダナイゼーションは、CI/CD パイプラインの改善やデータモダナイゼーションと強く関連付けられています。

モダナイゼーションという用語は、今でもさまざまな取り組みやアクションを表すために使用されることが多いため、今年も再びアプリケーション・モダナイゼーションの定義を尋ねました。地域、役職、モダナイゼーションの段階を問わず、大多数の回答者はアプリケーションのモダナイゼーションを継続的インテグレーション/継続的デプロイメント (CI/CD) パイプラインの改善 (68%) やデータモダナイゼーション (66%) と関連付けていました。CI/CD パイプラインは、開発の加速や、競争力の獲得のために使用されるアプリケーションおよびサービスのデプロイにおいて主要な役割を果たすので、この結果は理解できます。パイプラインは基礎的なテクノロジーであり、組織はパイプラインに新しい機能を追加し続けています。また、人工知能と機械学習 (AI/ML) のテクノロジーを導入する準備も進めており、これにはデータ・インフラストラクチャ、ツール、および手法の面で大きな投資が必要になります。

アプリケーションのモダナイゼーションの定義

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:

モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:

モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:

組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:

モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:

主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:

企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:

外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:

企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

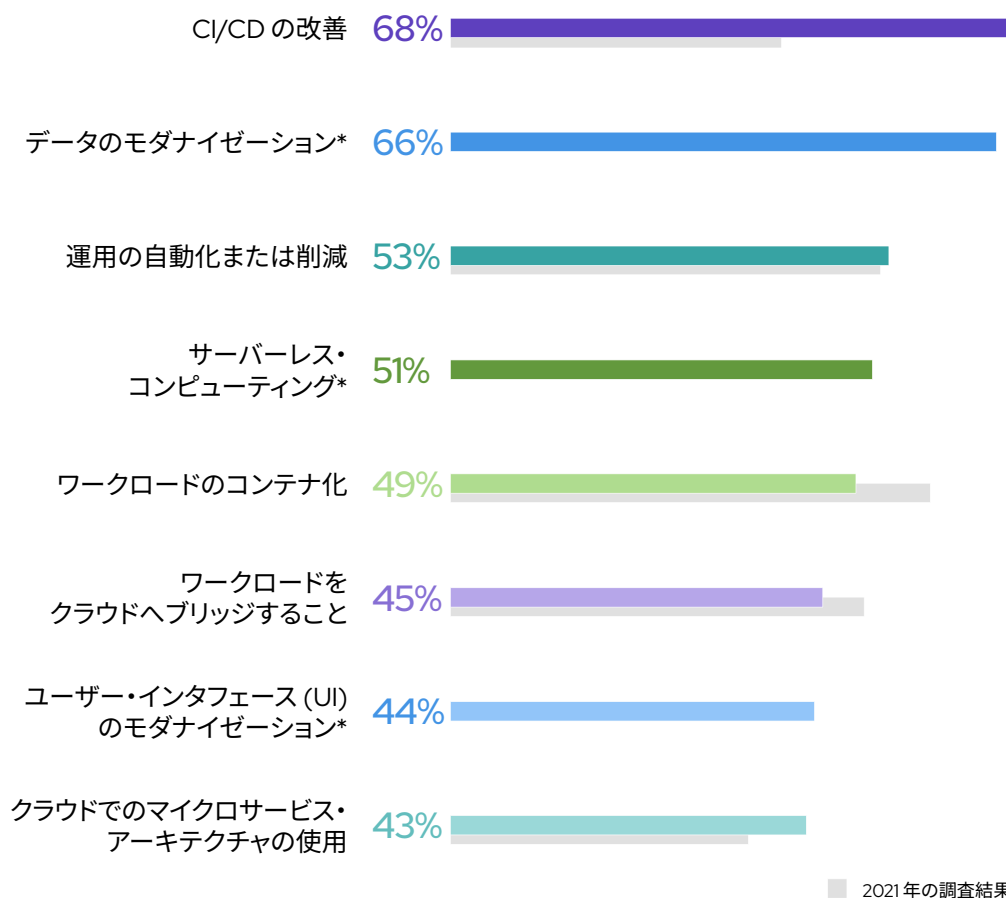
調査結果 9:

モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

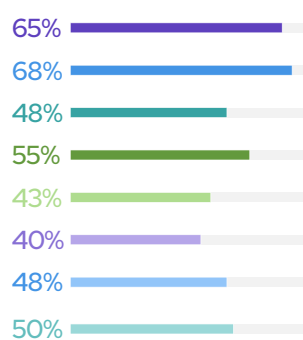
調査結果 10:

AI はモダナイゼーションをサポートする

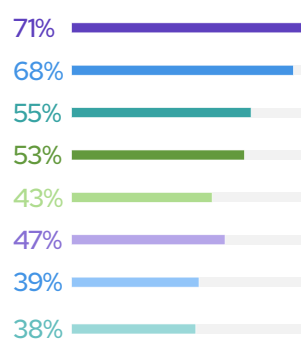
さらに詳しく



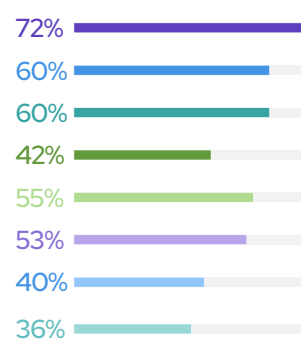
米国



英国



アジア太平洋



Q1. アプリケーションのモダナイゼーションはどのような意味を持っていますか？調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

*2023年に追加された新しい選択肢。前回との比較データはありません。

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

地域によって回答の傾向が異なるというのも興味深い結果でした。米国の組織は他の地域と比べ、マイクロサービス・アーキテクチャの使用やユーザー・インタフェースのモダナイゼーションにより大きく注力しています。また、米国と英国の回答者はどちらも、アジア太平洋の回答者と比較してデータモダナイゼーションとサーバーレス・コンピューティングを選択する割合が高くなっています。一方でアジア太平洋の組織では、米国と比べて運用の自動化、ワークロードのコンテナ化、ワークロードのクラウドへの移行がより多く選択されています。

さらに、アプリケーションのモダナイゼーションに関する経験が多い組織ほど、モダナイゼーションを自動化や運用の削減と定義づける割合が高くなっています。組織ごとに詳細は異なりますが、モダナイゼーションが単に1つのアクションや定義ではないことは明らかです。

調査結果 5:

主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

企業は、モダナイズを行う理由、取り組みを測定するためのメトリクス、アプリケーションのモダナイゼーションによる全体的なメリットはセキュリティ、信頼性、スケーラビリティであると考えています。

組織がモダナイズする理由として主に挙げるものはセキュリティ、信頼性、スケーラビリティであり、これらは目新しいものではありません。これらはデジタル・トランスフォーメーションやそれに関連する取り組みで期待されるメリットについて聞く調査でも頻繁に回答として挙げられます。ほぼすべての回答者が、自社でアプリケーションのモダナイゼーションを行う極めて重要な、あるいは相当に重要な理由としてこれらの要素を挙げています。実際に、70%を超える組織がこれら3つの要素をモダナイゼーションの成功を測る主要なメトリクスとして使用しています。ただし、どれか1つを成功の最適な指標とするほどに意見がまとまっているわけではありませんでした。

モダナイゼーションの理由、成功を測るメトリクス、 モダナイゼーションから得られるメリット

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:

モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:

モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:

組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:

モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:

主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:

企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:

外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:

企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:

モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:

AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

セキュリティの強化



信頼性の向上



スケーラビリティの向上



カスタマーエクスペリエンス/顧客満足度の向上



コストの削減



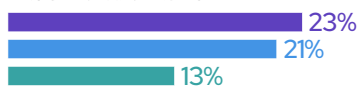
(将来的な) 開発スピードの加速



従業員の生産性の向上



技術的負債の解消



- アプリケーションのモダナイゼーションを行うことを決めた要因
- モダナイゼーションの取り組みの成功を測るメトリクス
- アプリケーションのモダナイゼーションを行うことを決めてから得られたメリット

Q2NEW_TB. 次に示す要因は、あなたの組織がアプリケーションのモダナイゼーションを行うことを決めるうえでどの程度重要でしたか？
調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

Q20a. あなたの組織はアプリケーションのモダナイゼーションの成功をどのように測定しますか？調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、
英国 = 250、アジア太平洋 = 250

Q20c. アプリケーションのモダナイゼーションを行うと決めてから、あなたの組織で実際に得られたメリット (もしあれば) はどれですか？
(現在モダナイゼーションを行っている組織の回答者に対する質問) 調査対象者数：合計 = 999、米国 = 499、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
**企業はさまざまな方法で
課題を克服している**

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

組織はすでに、モダナイゼーションの取り組みのメリットを獲得しつつあります。現在モダナイゼーションに取り組んでいる組織の半数以上が、セキュリティ (58%)、スケーラビリティ (53%)、信頼性 (52%) の面でメリットを感じています。モダナイゼーションからメリットを得ている組織のほぼすべて (98%) が、これらの重要な領域の少なくとも 1 つでメリットを感じています。この結果は、アプリケーションのモダナイゼーションがもたらす潜在的な価値を明確に示していると言えるでしょう。

地域的な差異も見られました。米国の回答者は、他の地域に比べて将来的な開発速度をモダナイゼーションの理由として挙げる割合が高くなっていました。英国とアジア太平洋の回答者は、セキュリティを重視する傾向が米国よりもわずかに強くなっています。また、アジア太平洋では、カスタマーエクスペリエンスの向上も重視されています。

とはいえ、アンケートの各選択肢はいずれも相互につながっています。たとえば、信頼性、スケーラビリティ、セキュリティの向上はカスタマーエクスペリエンスや従業員の生産性の改善につながります。このことから、地域的な違いとして見えているものは、組織全体の目標というよりは回答者の役割をより強く反映している可能性があります。たとえば、ITDM はビジネスレベルの結果を重視し、一方で開発者やアーキテクトは戦略的なアクションに高い順位を付けると考えられます。

調査結果 6:

企業はさまざまな方法で課題を克服している

個人や組織が直面している課題は相互に関連しており、組織は障壁への対処として複数のアクションを組み合わせています。

この調査では、個人として直面している障壁と、組織全体として向き合っている困難という、アプリケーションのモダナイゼーションにまつわる 2 種類の課題について尋ねました。その結果、個人として直面している課題は組織が直面している課

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

題と直接関連していることがわかりました。たとえば、個人レベルで挙げられている上位 3 つの障壁であるセキュリティの懸念 (56%)、統合の課題 (47%)、優先順位の競合 (44%) はいずれも、少なくとも部分的には、組織の課題のトップに挙げられているレガシーシステムの複雑さが原因となっていると考えられます。複雑なレガシーアプリケーションを変更する作業は、特にアーキテクチャや既存の接続を完全に把握していない場合は、セキュリティギャップに関する懸念やそれらのアプリケーションを先進的な環境に統合する難しさと容易に結びつきます。

組織が直面する課題はモダナイゼーションの段階によって異なることもわかりました。全体で見れば、上位の課題はレガシーシステムの複雑さ (48%)、優先順位の競合 (42%)、適切なアプローチの判断 (41%) でした。しかし、アプリケーションのモダナイゼーションの初期段階にある組織では、レガシーシステムの複雑さと適切なアプローチの判断を挙げるところが明らかに多く、それぞれ 58%、55% となっていました。また、小規模なモダナイゼーション・プロジェクトをすでに完了している組織では、優先順位の競合はそれほど課題とはされていません (33%)。

これらの課題に対して、企業はさまざまなアクションを取っています。上位のアクションには、新しいツールの調査と導入 (51%)、アプリケーション・プログラミング・インタフェース (API) 駆動型開発の導入 (42%)、モダナイゼーションのビジネスケースの構築 (40%) などがあります。3 分の 1 以上の組織がこれと併せてモダナイゼーションの課題を解決するためのトレーニングを実施している一方で、それらの組織を除く 40% は追加トレーニングが必要だと回答しています。全体として、これらのアクションからわかるのは、モダナイゼーションの障壁の克服における事前計画および体系的アプローチの重要性です。実際、米国在住のある ITDM は回答の中で「モダナイゼーションのプロセスの明確な目的と目標を定め、モダナイゼーションのみに注力する専門チームを構築し、現在のアプリケーション・ポートフォリオの包括的な評価を行う」べきであるとしています。

個人が直面しているアプリケーションのモダナイゼーションの課題

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

セキュリティ上の懸念 56%

統合の課題 47%

優先事項の競合 44%

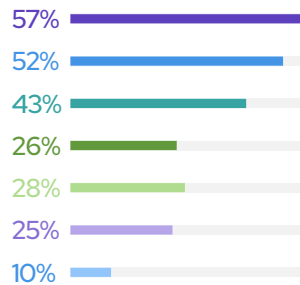
効果的なプロジェクト
管理の欠落 31%

投資対効果 (ROI) の実証 30%

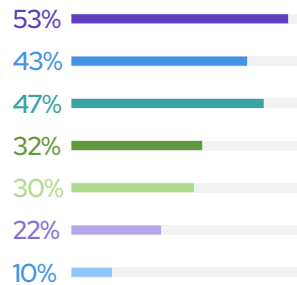
トレーニングや知識の不足 24%

アプリケーションの
モダナイゼーションにあたって
障壁に面したことがない 9%

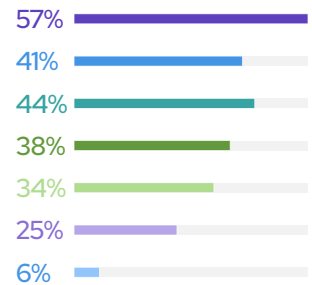
米国



英国



アジア太平洋



Q1b. アプリケーションのモダナイゼーションに関連して、あなたが個人的に直面した課題は何ですか? 調査対象者数: 合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

組織が直面しているアプリケーションのモダナイゼーションの課題

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している

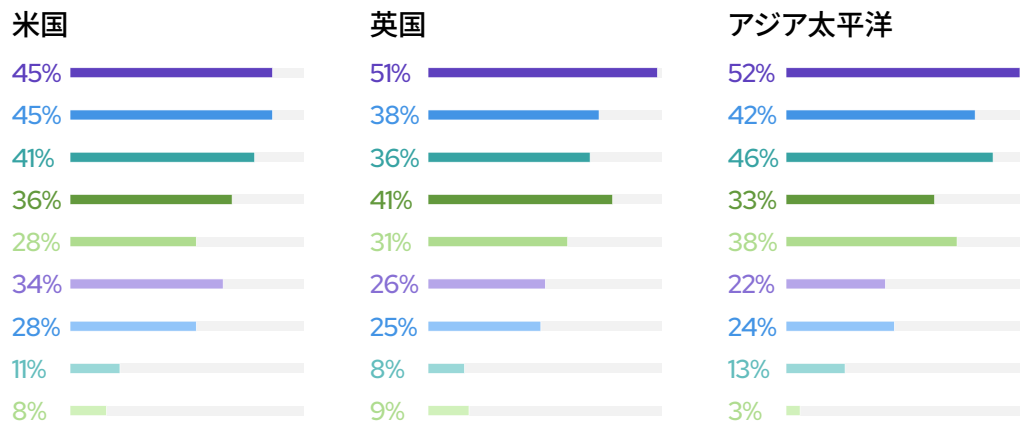
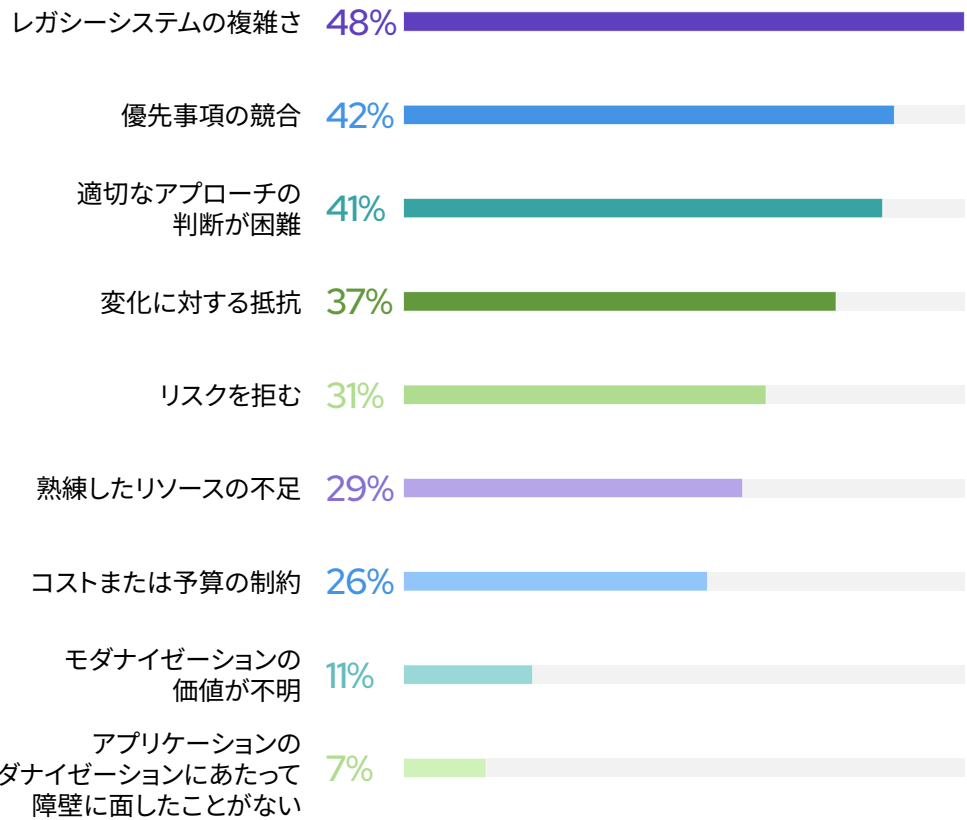
調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく



Q3x4. アプリケーションのモダナイゼーションのプロセスを進める中で、組織としてどのような課題がありましたか？調査対象者数：合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

調査結果 7:

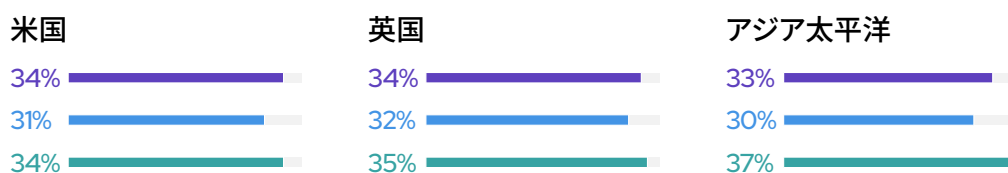
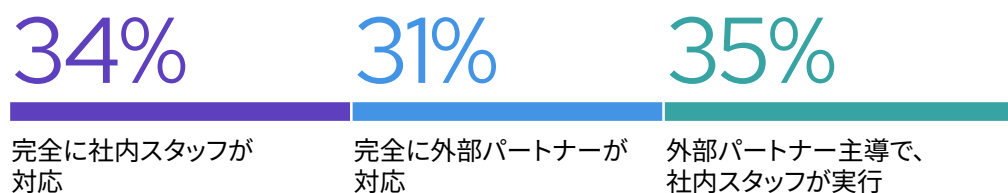
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

回答者は、アプリケーションのモダナイゼーションのプロセスに完全に対応するか、社内スタッフを率いるかのいずれかの方法で外部パートナーが関与することを期待しています。

組織で使用されているアプリケーションのうち、社内スタッフだけでモダナイズされるものは平均でわずか 34% です。残りのアプリケーション・ポートフォリオは、外部パートナーが完全に対応するか (31%)、外部パートナーが主導して社内スタッフによってモダナイズ (35%) されます。これらのアプローチの割合は、2021 年の調査からほとんど変化していません。ただし、外部パートナーが主導して社内スタッフがモダナイゼーションを行う割合はわずかに減少し、完全に社内スタッフで対応する割合はわずかに増えています。

外部パートナーによるアプリケーション・モダナイゼーションへの関与

(社内スタッフと外部パートナーそれぞれによる、カスタムアプリケーションのモダナイズの比率)



Q14. 組織としてモダナイゼーションを計画しているカスタムアプリケーション全体について、社内スタッフと外部パートナーそれぞれによるモダナイズはどのような比率で計画を立てていますか? 調査対象者数: 合計 = 988、米国 = 498、英国 = 240、アジア太平洋 = 250 ('わからない' という回答は平均値から除外)

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

この調査結果に、地域による差異は見られませんでした。アジア太平洋の企業は外部パートナーに相談しつつ社内でモダナイゼーションのアクションを実施する割合が多少高くなっていましたが、その他に大きな違いはありません。

組織のアプリケーションのモダナイズのおよそ 3 分の 2 にパートナーが関わっていることから、パートナーとの協業ではいくつかのポイントを押さえておくことが重要です。まず、プロセスの全体を通して内部のチームを関与させることです。全体的なプロジェクトは社内のチームが所有し、自社の制約やニーズについてパートナーのチームにガイダンスを提供します。外部パートナーは、新しいテクノロジーをどのように実装するかについてのアドバイスはできますが、その最適な使用法を判断するのに必要な知識を持っているのは社内チームです。

社内の適切な部署からの指示がなければ、外部パートナーが構築したソフトウェアが規制上、運用上、または組織的な制約のために使用できないリスクが高まります。また、ポートフォリオや働き方をパートナーが理解するのに長い時間がかかり、コスト、リスク、プロジェクト期間の増加につながる可能性があります。

調査結果 8:

企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

モダナイゼーションの戦略は多岐にわたり、多くの場合複数の段階を経由します。

昨年の調査ではモダナイゼーションの戦略について質問し、レガシーアプリケーションのモダナイゼーションにはさまざまな手法の使用が計画されていること、また戦略は全ワークロードに対して 1 つのアプローチを採用するのではなく、個々のワークロードに合わせて最適なものが選択されていることがわかりました。今年の調査でも同様の傾向が見られ、組織はモダナイズするアプリケーションに合わせてさまざまな戦略を使用していることがわかりました。

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

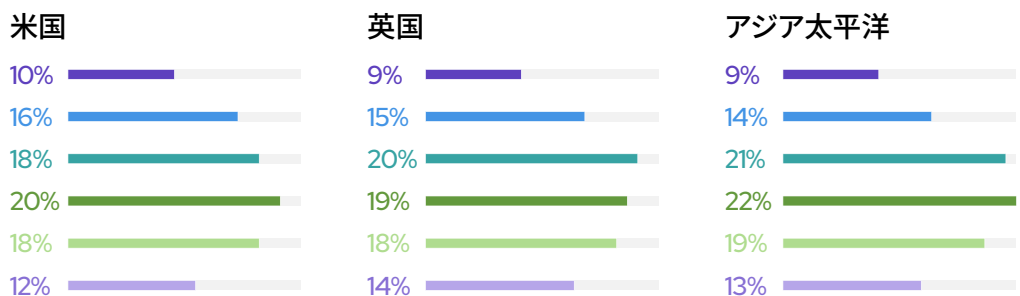
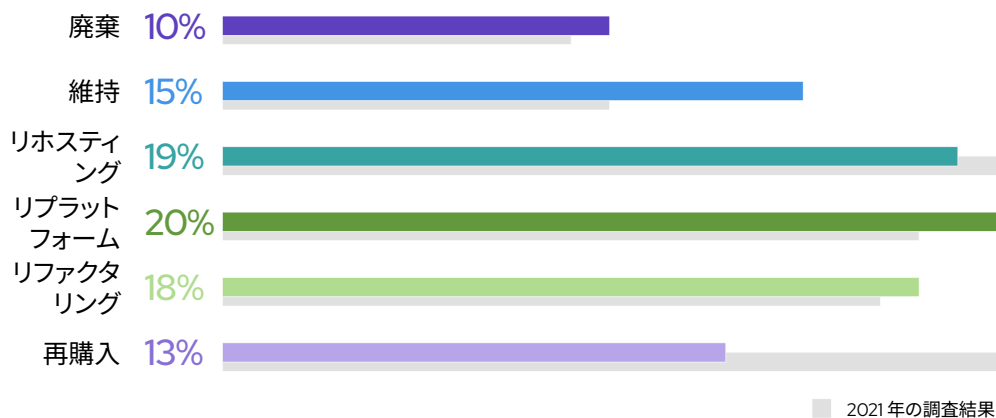
さらに詳しく

前回と同様、この調査でも 6 つの選択肢 (広範に使用されている「6R」) を提示しました。

- ▶ **廃棄 (Retire)**: 使用されていないアプリケーションを廃止します。
- ▶ **維持 (Retain)**: リファクタリングが必要になるまで、重要なアプリケーションをそのまま維持します。
- ▶ **リホスティング (Rehost)**: 最低限の変更でアプリケーションをクラウドに「リフトアンドシフト」します。
- ▶ **リプラットフォーム (Replatform)**: 中核的なコードやアーキテクチャを変更することなく、クラウドで実行できるようアプリケーションを最適化します。
- ▶ **リファクタリング (Refactor)**: ワークロードのコンテナ化やサーバーレス・アーキテクチャへの移行などによって、クラウドネイティブとなるよう **アプリケーションを再構築** します。
- ▶ **再購入 (Repurchase)**: 永久アプリケーション・ライセンスから SaaS (Software-as-a-Service) モデルに移行します。

アプリケーションのモダナイゼーション戦略

(それぞれの方式でモダナイズするカスタムアプリケーションの比率)



Q10. 組織として今後2年間でモダナイズを検討しているカスタム・プロダクション・アプリケーションについて何を実施する予定ですか? 調査対象者数: 合計 = 987、米国 = 497、英国 = 240、アジア太平洋 = 250 (「わからない」という回答は平均値から除外)

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

これらの戦略はいずれも一定程度使用され、レガシーアプリケーションの半数以上はリプラットフォーム (20%)、リホスティング (19%)、リファクタリング (18%) が計画されています。今年の調査ではアプリケーションの再購入が大きく減少しており、2021年には20%でしたが2023年には13%となっています。全体として、この調査結果は2021年と比べて地域による差異が小さくなっています。

今回の調査では、モダナイゼーションに際して採用されている複数段階のアプローチについてより詳しく探りました。その結果、半数近くの組織 (47%) がリファクタリングの前にリプラットフォームを計画していることがわかりました。また、38% はリホスティングを終えてからリプラットフォームを行い、最終的にリファクタリングを実施する計画を立てています。さらに、この数値は、アプリケーションのモダナイゼーションを継続的なプロセスととらえている組織では52%に増加します。アプリケーションのリファクタリングを1段階の手順として完了しようと計画している組織は全体のわずか15%でした。

調査結果 9:

モダナイゼーションの優先事項 はビジネスアプリケーション

組織はモダナイゼーションの取り組みへと予算をシフトさせており、コアビジネス、データ、および分析のアプリケーションを重視しています。

前回の調査と比較して、組織はモダナイゼーションの予算を新しいインフラストラクチャ、クラウドサービス、先進的なアプリケーションの提供 (予算の41%) から既存のレガシー・インフラストラクチャおよびアプリケーションのモダナイズ (予算の59%) へとシフトさせています。この調査結果は、どの地域でもほぼ同一となっています。予算のシフトは組織がモダナイゼーションのプロセスを前進させてより多くのアプリケーションを変革する段階へと移行していることと同調しているため、これは理解できます。

調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

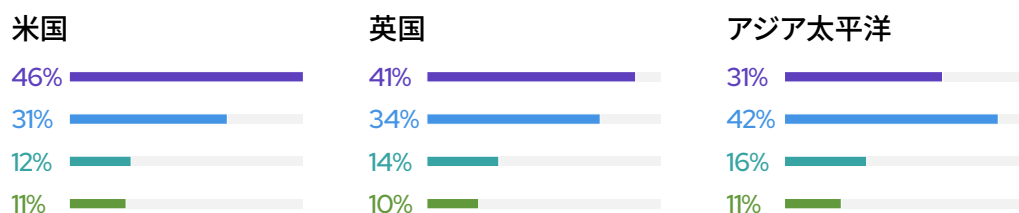
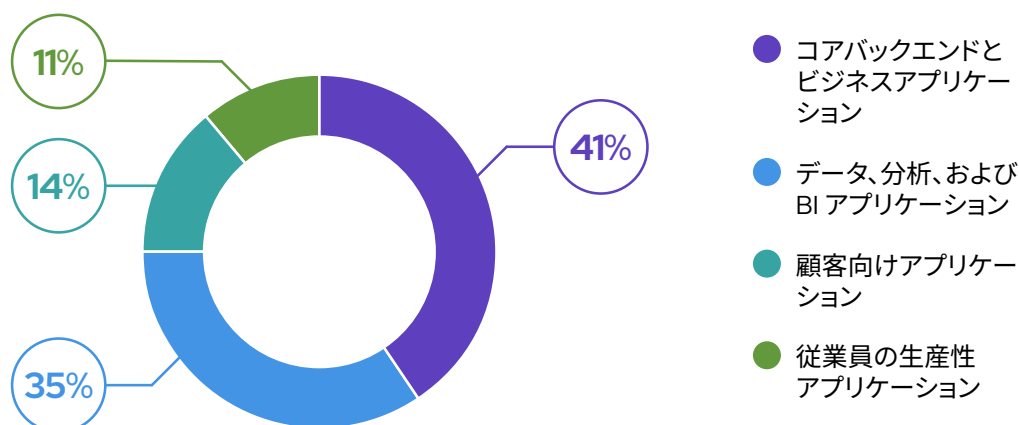
調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

組織が注力しているアプリケーションの種類にも変化が見られました。コア・バックエンド・アプリケーション (41%) が首位であることは変わっていませんが、ビジネスインテリジェンス (BI) アプリケーション (35%) が顧客向けアプリケーション (25% から 14% へと下落) を抜いて 2 位となりました。従業員の生産性アプリケーションもモダナイゼーションの優先順位が下がっており、2021 年には 19% でしたが 2023 年には 11% となっています。

これらの調査結果からは、企業が顧客向けのアプリケーションではなくビジネス運用のためのアプリケーションとビジネスの意思決定を導くデータをより重視するようになっていることがわかります。このことは一見理解しがたいように思えますが、顧客向けアプリケーションの多くがすでにモダナイズを終えているか、単純により先進的またはクラウド対応のアーキテクチャで構築されるかしているであろうことを考慮すると、道理にかなっています。

モダナイゼーションの優先順位



Q13. 組織としてどの種類のアプリケーションを最初にモダナイズする計画を立てていますか? 調査対象者数: 合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

他の場合と同様、重要なアプリケーションのモダナイズを計画する際には、関連する依存関係を入念に評価して把握することが重要です。たとえば、コアアプリケーションは古い静的なシステムに依存していることが少なくありませんが、こういったシステムは新しい動的なテクノロジーやサービスとはうまく連携できない可能性があります。その結果、対象のアプリケーションと併せて、その他のシステム、データストア、アプリケーションの移行やモダナイズを検討する必要性が生じる場合があります。

調査結果 10:

人工知能はモダナイゼーションをサポートする

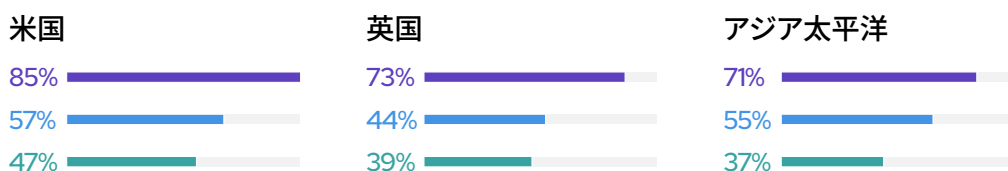
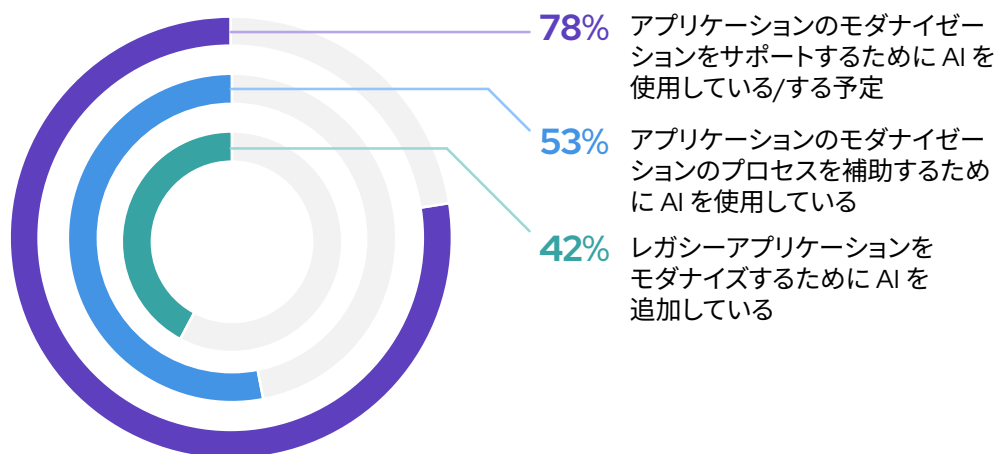
大多数の組織は、アプリケーションのモダナイゼーションのプロセスをサポートするために人工知能 (AI) を使用しています。

過去数年で、組織は AI を導入し、そのユースケースは増え続けています。実際、63% の企業は現在 AI および機械学習 (ML) のワークロードを処理しており、77% は今後 2 年以内にそうすることを計画しています。たとえば現在、企業は AI を IT 運用 (76%)、データの分析と管理 (66%)、およびサイバーセキュリティ (62%) などに使用しています。

78% の組織はモダナイゼーションの取り組みに AI を適用しています。全体的に、53% の回答者は自社がアプリケーションのモダナイゼーションのプロセスを支援するために AI を使用していると回答し、42% は自社がレガシーアプリケーションに AI を追加してモダナイズしようとしていると回答しています。自社がモダナイゼーションの支援として AI を使用していないとする回答者はわずか 22% でした。

これらの結果では、多少の地域差が見られました。米国の企業は、他の地域の企業と比較して既存のレガシーアプリケーションに AI を追加する割合が高くなっています。一方で、英国の回答者では、自社がモダナイゼーションの支援のために AI を使用するとした割合が低くなっています。

アプリケーションのモダナイゼーションの取り組みにおける AI の使用



Q15a. あなたの組織では、アプリケーションのモダナイゼーションのプロセスそのものをサポートするために AI を使用しているか、使用する予定がありますか? 調査対象者数: 合計 = 1,000、米国 = 500、英国 = 250、アジア太平洋 = 250 (「わからない」という回答は平均値から除外)

モダナイゼーションの取り組みで AI を使用している組織では、パフォーマンスの最適化 (78%)、手動タスクの削減 (51%)、テストの自動化 (45%)、レガシーコードの識別 (41%)、コード作成の補佐 (31%) のユースケースが多いことがわかりました。これらの結果は、AI テクノロジーの強みを反映しています。AI はアプリケーションのパフォーマンス、データフローとネットワークフロー、依存関係のパターンを識別でき、スタッフがはるかに少ない時間でアプリケーションの現状を把握するのに役立ちます。また、さまざまなタスクやプロセスを自動化するのにも役立ちます。さらに、生成 AI テクノロジーが成熟するにつれ、コーディング補佐ツールを導入して開発のスピードアップを図る組織が増えていくと予想されます。

これらの結果はどの地域でもほぼ同様でしたが、アジア太平洋の組織は、AI を手動タスクの削減または排除に使用する割合が米国および英国の組織よりも高く、英国の組織は他の地域と比べてモダナイズ対象のレガシーコードの識別に AI を使用する割合が低くなっていました。

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積している

調査結果 4:
モダナイゼーションが指すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、信頼性、スケーラビリティである

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナイゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイゼーション戦略を使用する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優先事項はビジネスアプリケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーションをサポートする

さらに詳しく

アプリケーションのモダナイゼーションの取り組みにおける AI ベースのタスク

エグゼクティブサマリー

このレポートについて

主な調査結果

調査結果 1:
モダナイゼーションに
対する姿勢は前向き

調査結果 2:
モダナイゼーションは
前進を続ける

調査結果 3:
組織は専門知識を蓄積し
ている

調査結果 4:
モダナイゼーションが指
すものは1つではない

調査結果 5:
主な目標はセキュリティ、
信頼性、スケーラビリティ
である

調査結果 6:
企業はさまざまな方法で
課題を克服している

調査結果 7:
外部パートナーがモダナ
イゼーションを支援する

調査結果 8:
企業は複数のモダナイ
ゼーション戦略を使用
する

調査結果 9:
モダナイゼーションの優
先事項はビジネスアプリ
ケーション

調査結果 10:
AI はモダナイゼーション
をサポートする

さらに詳しく

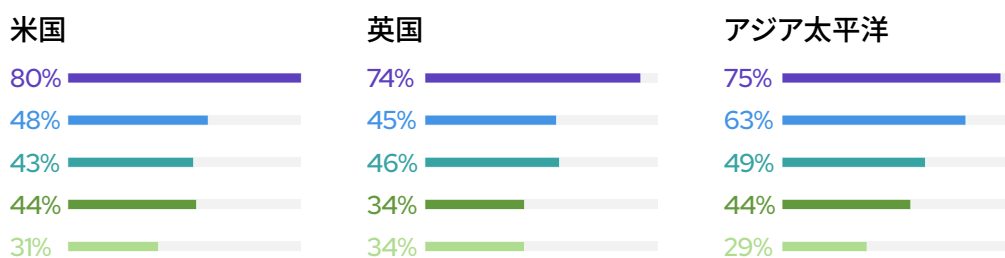
パフォーマンスの最適化 78%

手動タスクの削減または排除 51%

テストまたは品質保証 (QA)
の自動化 45%

モダナイズする
レガシーコードの識別 41%

コーディングの補佐 31%



Q15b. あなたの組織ではアプリケーションのモダナイゼーションでどのように AI を使用している、または使用を計画していますか? (AI を使用しているか使用を計画している組織の回答者への質問) 調査対象者数: 合計 = 777、米国 = 425、英国 = 175、アジア太平洋 = 177

さらに詳しく

アプリケーション・モダナイゼーションはあらゆる業界や地域の組織にとって明確な優先事項です。

しかし、プロセスに困難が生じる場合があり、詳細な計画を策定して時間とリソースを細かく配分する必要があります。その結果、大半の組織にとって、アプリケーションのモダナイゼーションは継続的なプロセスとなっています。以下に、モダナイゼーションを加速し、成功させるのに役立つベストプラクティスを紹介します。

経営陣の支援を得る

説得力のあるビジネスケースを提示して経営陣の支援とプロジェクトのリソースを確保します。

- ▶ ブログ記事：[ビジネスケースを作成する](#)
- ▶ eブック：[モダナイゼーション・ジャーニーの計画](#)

ポートフォリオを評価する

まずアプリケーション・ポートフォリオの評価から始め、最も大きな結果を得られるモダナイゼーション対象を見つけます。

- ▶ ブログ記事：[プロジェクトの範囲を定義する](#)
- ▶ オンラインツール：[モダナイゼーションの評価](#)

チームを構築する

共同で作業できるプロジェクトチームを構築し、企業のニーズを満たせるように調整します。

- ▶ ブログ記事：[適切なプロジェクトチームを構築する](#)
- ▶ ツール：[アプリケーション移行ツールキット](#)

関係者を教育する

新しいテクノロジーを使用するチームにトレーニングやツール、リソースを提供します。

- ▶ ブログ記事：[チームを準備する](#)
- ▶ コミュニティ：[Konveyor](#)

アプリケーションのモダナイゼーション・ジャーニーの計画の詳細は[こちら](#)をご覧ください。

Red Hat OpenShift でモダナイゼーション・ジャーニーを開始する

Red Hat® OpenShift® は、アプリケーションの開発、デプロイ、管理のための、信頼できる包括的で一貫したプラットフォームです。

Red Hat OpenShift を使用すると、クラウドネイティブの手法でイノベーションし、デジタル・トランスフォーメーションを加速し、ビジネスの成長を促進するのに役立ちます。Red Hat OpenShift は、デプロイ方法や使用方法を柔軟に選ぶことができ、多様な環境におけるアプリケーション開発、AI/ML 導入、エッジコンピューティング、IT モダナイゼーションの取り組みなどといったさまざまなユースケースをサポートします。包括的なアプリケーション・プラットフォームであり、現在のデジタル世界でイノベーションを行うために必要なコンポーネント、ツール、テクノロジーを提供します。

Red Hat OpenShift の主な機能

- ▶ 開発者用ツール
- ▶ CI/CD パイプライン
- ▶ GitOps ツール
- ▶ サービスメッシュ
- ▶ 監視およびロギング
- ▶ クラスタをまたいだアプリケーション・ライフサイクル管理
- ▶ コンテナレジストリ
- ▶ マルチクラスタガバナンス向け Kubernetes ネイティブセキュリティ
- ▶ コンテナ向けソフトウェア・デファインド・ストレージ

さらに詳しく

Red Hat OpenShift を使用したモダナイゼーションの詳細についてはこちらのリソースをご覧ください。

- ▶ Red Hat OpenShift
- ▶ Red Hat OpenShift AI
- ▶ Red Hat OpenShift Virtualization
- ▶ Red Hat Developer Hub

無料で始める

Red Hat では、お客様が今すぐ使い始められるよう無償のプログラムやトライアルを提供しています。

- ▶ 開発者サンドボックス
- ▶ Red Hat OpenShift トライアル
- ▶ Red Hat Level Up OpenShift プログラム
最大1年、フルサポート付き、お客様向け